

さくら川

かきれいさい

なごしはらえしき

夏季例祭及び夏越祓式

8月5日(土)

午前中 紙あんどん掲揚

午後3時ごろ
お振る舞い

金魚すくい

かき氷

焼き鳥

生ビール

ポップコーンなど

5時半

とうろう点火

祭典

茅の輪り神事

6時半ごろ

神賑行事

巫女舞

お神楽(3幕)



◎花火奉納申し受け申
1発3000円です
ご芳名は
当日紹介
します



かな川で禊祓えをして心身を清めた」とあり、これが祓えの始まりです。神社では夏越と大晦日に大祓をしますが、古くより「夏越の祓えする人は千歳の命延びと言うなり」と言われ、「夏越大祓」は心身を健康に保つために大切な事とされてきました。

人の形をした「形代」で全身を丁寧にさすって、最後に大きく息を吹きかけ、悪いものを全て形代に移し、川に流します。

参道に茅を輪に束ねた「茅の輪」が設けられます。茅は剣のような葉の形から魔を祓うとされ、茅の輪を「左・右・左」とぐるぐると心身が祓われます。



夏祭は、風水害や病虫害にあわず豊かな秋のみのりをいただけるよう、暑さや疫病にかららず健やかにすごせるよう、神様に祈るお祭りです。『古事記』に「亡き妻を死の国へ訪ね、追いかづかれ逃げ帰った伊邪那岐大神が、清ら

発行 熱日高彦神社社務所
電話 012-4162-0241
FAX 012-4166-3487
平成二十九年八月一日
第一〇〇号

おかげさまで 社報『さくらい川』100号

神社広報誌として県内で屈指の発行期間と実績を持つ『さくらい川』。その三十八年間をあらためて読み解くと、神社の諸事のみならず、地域のうごきや社会背景が見えきます。それはふるさとの「郷土誌」「民俗誌」と言えるかもしれません。

左(↑)は昭和五十五年十一月発行の『さくらい川』第一号。B4版わら半紙一枚の表のみ印刷で筆とペンで一文字ずつ丁寧に記されています。

100号発行に感謝

今号をもちまして、熱日高彦神社社報『さくらい川』が第一〇〇号を数えることとなりました。読者である氏子崇敬者の皆さまの、これまでのご協力とご指導のたまものと深く感謝するところです。

発行の時代背景

めの方途にもなりました。

神社には、言葉には魂がやどる(=言霊)ので軽々しく發す

るものではない、という考えがあります。ゆえに「もの言わぬ

宗教」として理解しにくい面がありました。しかし、歐米化や

高度経済成長で、日本のうるわしい習慣や信仰が失われる中で

「これではいかん」という機運

が高まり、積極的に發言する動

きが生まれました。第一号の發行はまさにそのような中でした。

ちなみにこの年(昭和五十五年)

「神輿担ぎ」が復活しています

し、元朝参りのための電灯設備の奉納の記事があります。

神社活動振興の手段

当初は定期ではないものの例

祭や正月にあわせて発行され、貴重な情報発信の手段となつた

ようです。年中行事のお知らせ

や、七五三や車祓などの新しい

神事の周知などが行われ、神社

活動に理解が得られ、結果として参拝する方が増えて行きまし

た。また、諸施設建築など大事

時代背景も読み取れる

神社は地域と深くかかわることから、記事の中に当時の社会

状況が読み取れます。たとえば

経済成長とともに汚れてしまった桜井川が、環境問題への目覚めとともに魚が泳ぎ、虫が舞う川

に復活していく様が解ります。

氏子崇敬者さんの協力

発行にはたくさんの協力がありました。総代さんに配布いた

だいた時期もありました。多くの方にご寄稿をいただきました

し、現在も小島和夫さんにシリ

ズで玉稿をいただいております。

「さくらい川」のこれから

神社の広報とともに地域に密着した情報誌を目指します。年

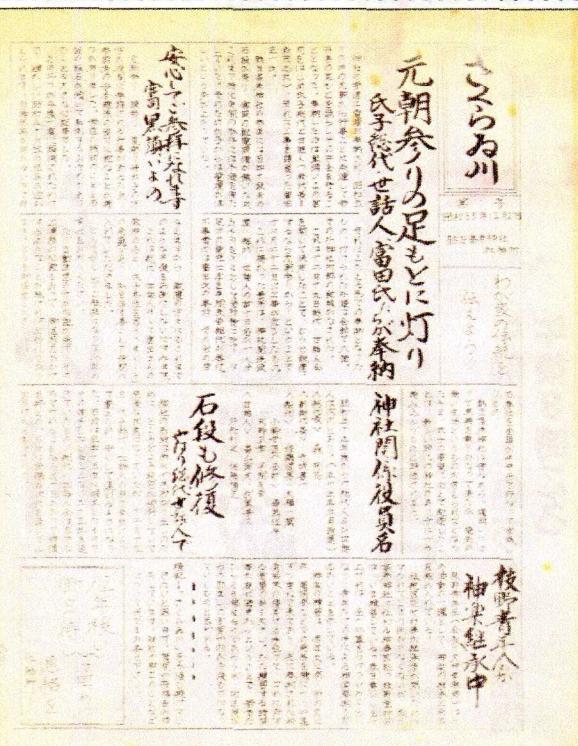
四回発行、読みやすい表現、興味を持っていただける内容にな

るよう努力します。また、ホー

ムページ上でのバックナンバーのデジタル化をすすめ、「郷土誌」として全号をどなたにも読

んでいただけるようにします。

今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い致します。



植物の生存戦略

子もない。」のような動物から
鳥を狩る手段が「トケ」である。
トケには、バトのように葉の表
面が変化したもの、ヒトツギの
よつて葉がとじがつてくられ

感してきました。トゲが動物に對して防御の役割をはたしていく例である。

☆天敵を呼び寄せる

☆天敵を呼び寄せ
り、少しあつたりするだけで十分
のう。

自然界はすべて「食う、食われる」の関係にある。」の過酷な世界において、手足のない植物は一方的に食べられる存在である。ウシやシカなどの大型の草食動物だけではなく、アオムシやカタツムリにさえ食べられる、か弱い存在だと言えるだろう。植物は食物連鎖の底辺に位置しているのだ。しかし、本当にか弱い生き物なのだろ

トゲには、バリのようにして葉の表面が変化したもの、ヒトカラギのように葉がとじかってくられたもの、カラタチのように茎自身がトゲ状に変化したものなど、さまざまな種類がある。

野ばらのよつにトゲをもつ植物が群生すると、草食動物



感してきました。トゲが動物に対する防御の役割をはたしている例である。
☆毒や苦味で動物、昆虫を排除する

植物の多くは、「アルカロイド」と呼ばれる有機化合物を体内にむづつ。タバコの葉に含まれる「ニコチン」や、お茶の葉に含まれる「カフェイン」、トウガラシに含まれる「カプサイシン」もアルカロイドの一種だ。とくに「アコニチン」をもつトリカブトや、「スズポリマツ」をもつチヨウセセンアサガオは毒性が高い。しかし、強力な毒をつくるには高い「リスト」がかかり、致死性の高い毒では、動物たちは学習する前に死んでしまう。植物に

とにかく、動物を殺す必要はない。少し食べてしまい、悉かつた
り、苦かつたりあるだけで十分なのだ。

☆天敵を呼び寄せる

身近な野菜、キヤベツや、虫に対するわざでたくみな防
御システムをもつて居る。青虫に食べられるとい、青虫の天敵で
ある「マコバチを引き寄せねんにおこを放つといふ。つまり、
敵の敵は味方といつわけである。くわしいメカノズムは明ら
かでないが、アオゴラの種類によつて放出するおこも変え
るといつ。

つか。実は植物は黙つて食べられてるわけではない。あの手この手を使って、自分の身を守るためにもやもな“戦略”を持つて懸命に生きてしのんだ。一列を述べる。

☆鋭いトゲで、動物をよじつかない

植物の天敵といふと、大型草食動物や昆虫である。せっかく葉を茂らせて、バリバリと大量に食べられてしまえば元も



トリカブトのスケッチ

植物は、食物連鎖の最底辺に位置するが、植物は動物がいるなくとも生きていこうことができる。すべての動物は植物がつくりあげた世界に住まわせてもりりてらるるのである。

(文／小島和夫氏)

お盆花鑑賞会

八月十一日(金・山の日)

午前9時半
自治センター集合

お盆花鑑賞会前にして今年も「お盆花鑑賞会」を開催します。例年どおり小島和夫さんを講師にお迎えし、盛夏から晩夏の野の花々を鑑賞します。

枝野自治センターの地域学習行事「枝野賀川・新川堀切と阿武隈川の変遷」(講師阿部憲正さん)に併せて行いますので、ご希望の方は九時三〇分までに自治センターにお集まりください。



八月十五日

忠魂碑慰靈祭

戦没者を追悼し平和を祈念する日、八月十五日の早朝八時、忠魂碑前にて戦没者慰靈祭を斎行いたします。昨年の



この欄に「民族衝突の時代へと世界は動いています」と書きましたが、挑戦半島をめぐる情勢はさらに悪化しつつあります。こんな時だからこそ、あらためて英靈に感謝し平和を誓いたいと存じます。多くのご参拝をお待ちいたします。



七五三詣りのご案内

隊友会の佐々木明さんが除草奉仕

社頭暦

	七月	一	文月月次祭
	一	七	日 海の日
	五	夏	季例祭(宵祭)
夏越しの祓			
一一日 山の日			
一三日 六日 お盆			
一五日 戰没者慰靈祭			
九月 一 日 長月月次祭			
十八日 敬老の日			
二三日 秋分の日、祖靈祭			

おめでとう

お誕生おめでとうございます

○佐藤俊哉・眞優美夫妻(仙台)

長女 あさひちゃん

○佐藤勇太・恵愛夫妻(仙台)
長女 優衣華ちゃん

竹ぼうき奉納
佐藤光矩さん

写真(春祭)奉納
石田雄三さん



奉納・奉仕ご紹介

鈴の緒奉納

門馬恵美子さん

春季例大祭花火奉納者
森一治 斎藤秀明 佐藤啓
佐藤雅邦 高橋政信 大森会
一区子ども会

春季例大祭花火奉納者
門馬強 鈴木時男 黒須俊明
渡邊郷司 門馬一男 佐々木明
ヘアーサロンとむら 斎藤仁

二区子ども会
戸村正男 小野進 鹿又セツ子
佐藤敬子 小野はる代 佐藤勝征

戸村勝美 長谷川清志 佐藤和隆
小野あさよ 戸村久美子

小島和夫 戸村健男 堀畑俊一郎
牛田武雄 桑島勇治 小野良雄
佐藤久夫 佐藤光矩 佐久間誠一
(敬称略)

※左記以外は次回掲載します